

国際ワークショップ

モンゴル帝国継承国家論の再検討:「モンゴル時代」後のモンゴリア

モンゴル帝国解体後のモンゴリアは、有力な史料の欠如から「暗黒時代」とも呼ばれ、モンゴル史あるいは中央ユーラシアの中にどのように位置づけるか、難しい課題とされてきた。研究史的に見ると、伝統的にこの時代のモンゴリアの歴史は「明代モンゴル史」または「北元史」と呼ばれてきたが、これらの呼称は、あくまで中国王朝との関係を前提としたもので、必ずしもモンゴル史・中央ユーラシア史の枠組みに沿ったものではなく、また旧モンゴル帝国全体との関連性を視野に入れたものでもない。

本ワークショップでは、このような旧来の視点からの脱却を模索しつつ、モンゴル帝国解体（14世紀）から清朝による東モンゴル支配確立（17世紀）に至る時期のモンゴリアに、政治・社会・法・史料などのさまざまな側面から光を当て、「モンゴル帝国の継承国家」という概念を再検証することをめざす。

【プログラム】

日時: 2016年7月9日(土) 10:00-18:00

場所: 早稲田大学戸山キャンパス(文学学術院)33号館 333教室

地図: <http://www.waseda.jp/top/access/toyama-campus>

◆セッション 1: 10:00-11:30

Christopher P. Atwood (University of Pennsylvania)

ダヤン=ハーン家による統合: モンゴル/マンジュ両帝国間の失われた環?

◆セッション 2: 13:00-16:00

Hosung Shim (Indiana University)

オイラドはいつ、いかにして大元の対抗国家として出現したか?: 歴史的・地理的アプローチ

赤坂恒明 (早稲田大学/内モンゴル大学)

ペルシア語・テュルク語史料から見た北元

Samuel Hamilton Bass (Indiana University)

捕獲と管理: モンゴル/マンジュ両帝国における奴隷獲得と社会

◆セッション 3: 16:30-18:00

達力扎布（中央民族大学）

二つの法の集成写本：1640年ハルハーオイラト大法典

（両部法典的合抄本：“1640年喀爾喀-衛拉特大法典”）

お問い合わせ先：

早稲田大学中央ユーラシア歴史文化研究所

E-mail: eurasiaken.info@gmail.com

Tel: +81-3-5286-3697

※本ワークショップは、早稲田大学総合研究機構の「シンポジウム助成」を受けています。